

特別展 「海 —生命のみなもと—」

国立科学博物館（上野公園） 23. 07. 15～10. 09 名古屋市科学館 開催日未定



2013年と2017年に開催された特別展「深海」では、極限環境である「深海」を探索する人々の挑戦や、そこで暮らす様々な深海生物や研究などが紹介されていた。

今回の特別展は、私たちの身近にある「海」の誕生から現在について、多様な生物や人と海の関わりを紹介し、海との未来を考えようとする企画で構成されている。

会場には模型や標本など「250点程」が展示され、約40億年前の深海熱水活動域が再現されたジオラマや、「生きた化石」インドネシア・シーラカンスの化石と現生生物の比較、高さ約4.7mもある「ナガスクジラ」の上半身標本、4500m級の無人探査機「ハイパードルフィン」の実機が見られる。
<展示の構成>

1. 海と生命のはじまり：始原的隕石から太陽系惑星に至る水の起源、地球史における海の誕生と進化、初期生命の生態系についての最新の研究成果の紹介。
2. 海と生き物のつながり：日本列島周辺の海底を形作るプレート運動や火山活動、黒潮を含む海流が生み出す大規模な海洋循環を解説し、それらが生物の分布や多様性にどれほど影響し大きな広がりが生まれているかを紹介。
3. 海からのめぐみ：水源資料の利用にとどまらない様々な「海からのめぐみ」について人類史を通じて紹介。
4. 海との共存、そして未来へ：水産資源の枯渇、海洋酸性化、貧酸素化、海洋プラスチック汚染など、海で進行する変化を紹介その取り組みを紹介。



シーラカンス（左上） ナガスクジラ（右上） マッコウクジラ（下）の標本